

悩みの中の40歳



岡本昭子

東京農工大学大学院工学府応用化学専攻有機材料化学専修
[184-8588] 小金井市中町2-24-16
講師, 博士(工学).
専門は有機構造化学, 有機化学, 高分子化学.
aokamoto@cc.tuat.ac.jp

<https://researchmap.jp/read0142270>

「そんなに学校にいるなんて馬鹿じゃないの?」—2019年3月下旬。大学教員として働き始めて10年。同じく大学教員の夫との東京と札幌での別居婚生活5年目。初めて訪れた生殖医療のクリニックで、毎日朝から晩まで研究室にいて、帰ったら眠るだけ、「働き者である」ことを少し誇らしげにも話した私に、医師(後の主治医)は浴びせかけた。この日から私の妊活が始まった。「不妊の陰には必ず病が隠れている」と話す主治医が行ったのは「徹底的な生活改善」と「子どもをもつことを第一優先とする思考の変革」だ—早寝早起き(23時までに眠る)。一日45分間以上歩く(早足で)。三食決まった時間に摂る。糖質厳禁。パソコンを連続30分以上見ではいけない—これまでとは全く違う生活である。主治医の指示で最も難しかったのが「幸せな気持ちを維持すること」だ。当時の私は仕事面で不安がいっぱいだった。これからどうなるのか。気がつくとき涙が込み上げてくるときもあった。そんなとき、私の上司の米澤宣行先生は「今は焦らず、この子どもをもてる機会に集中しなさい。きっとお前を成長させてくれるだろうから。」と励ましてくださった。悔しさ、怒り、悲しみの渦に飲み込まれないように。この道の先にはきっと幸せが待っていると信じて、毎日、毎日……本当によく歩いた。想いが通じたのか、私は妊娠することができた。

妊娠がわかり、嬉しさでいっぱい私だったが、働いているといろいろある。無神経な言葉に傷ついたり、気遣われるとこれから重要な仕事を任せてもらえなくなるのではないかと不安に陥る。授業、行事、躍起になって取り組んだ。体は正直なもので、無理をして緊張感が高まると必ず出血が起こった。この頃、研究室には修了を控えた博士学生(修士修了と同時に社会人Drになった)がいて、私にとっては自分を信頼してついてきてくれた最後の「誇り」だった。この学生たちを何としても修了させてやりたいという意地が私を集中させ、不安を振り切らせてくれたと思う。お腹が大きくなり、産休が見えてきた頃、焦って仕事する私に嬉しい来客があった。学科の集中講義の非常勤講師として本学を訪れていた先輩女性教員だ。大学から研究所へと研究のフィールドを移した後、出産し、週末婚しながら二人の子育てを行ってきた先輩は、私の悩みや

焦りを聞いて、「焦るけど今の私にはこのバランスがちょうど良いかな。子どもが生まれればだんだんうまく回るようになるから。」と勇気づけてくださった。私たちは常に変化の中にいる。良いときも悪いときもあって当然。今は今でちょうど良いと前向きに捉えて生きようというエールだ。

壮絶な出産を経て、私はかけがえない宝物を手に入れた。それと同時に妊娠期とはまた違う大変革の日々が始まった。産褥期に夫は育休を取得した(所属機関で初とのこと)。掃除、食事作り、買い物と本当によくやってくれた。初の夫婦同居で、いろいろ我慢していたと思うが、最初の子育て時期を二人で試行錯誤できて良かったと思う。私の仕事復帰は授乳の合間の1時間から始まった。自転車を漕いで、研究室に到着。郵便物とメールを急いでチェックして、米澤先生と少し話をして全速力で帰る。コロナ禍での保育園探しと登園自粛、育児の合間のオンライン講義準備……月日は目まぐるしく流れた。この1月で娘は1歳になった。子どもをもつことにより、時間の使い方、集中力のコントロールの仕方、周囲へのかかわり方は強制的に見直すことになったが、今の私は仕事人として変革のチャンスだと捉えて楽しんでいる。

妊活、妊娠、出産を経て、男と女は生物学的に全く違うということを思い知らされた。男女平等とは女性が男性と同じことをできるようにすることではない。違いを認め、互いをリスペクトしながら支え合うことだと思う。女性研究者がキャリアのために子どもをもつことを諦めたという話を耳にする。私は夫と離れて暮らしていたが、妊活から現在まで実家の支援を受けている。私は恵まれていたと確かに思う。一方で、親族の助けがないと女性の仕事と子育ての両立が困難という現在の状況は少しおかしい気もする。社会に出るのが遅い理系学生には勉学を続ける、仕事や子どもをもつ、将来すぐに直面するさまざまな選択肢を見据え、いつでも大学に戻れる仕組みがあっても良い。問題点を頭に入れながら、今後はこれまで苦労して仕組みづくりをされてきた先輩方に続けたいと願う。今の私が後輩たちにできることは、悩み、もがき苦しみながらも前を向く生き様を見せていくことだと思っている。